

目 次

まえがき i

I NO の物理化学

1 NO の 物 性 三浦ゆり, 小沢俊彦 ... 3

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1 構 造 3 | 3.2 酸化剤との反応 6 |
| 2 物理的性質 5 | 3.3 還元剤との反応 6 |
| 3 化学的性質 5 | 3.4 硫黄化合物との反応 7 |
| 3.1 ハロゲンおよびハロゲンを含む化合物と
の反応 6 | 3.5 ニトロシル化合物と錯化合物 7 |
| | 文 献 7 |

2 NO-ヘム錯体の構造と物性 吉村哲彦 ... 8

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 配位子としての NO 8 | 4.3 NO ヘムの IR, 共鳴ラマンスペクトル
16 |
| 2 NO ヘムの構造 9 | 4.4 NO ヘムと窒素配位子との平衡反応 16 |
| 3 プローブとしての NO 11 | 4.5 NO ヘムと NO との反応 17 |
| 4 NOFe(II)ヘム錯体の性質 11 | 5 NOFe(III)ヘム錯体の性質 17 |
| 4.1 NO ヘムの紫外・可視吸収スペクトルと
MCD スペクトル 11 | 文 献 18 |
| 4.2 NO ヘムの EPR スペクトル 12 | |

3 NO-遷移金属錯体の構造と物性 三木瑛一... 20

- | | |
|---|--|
| 1 金属-NO 結合の性質 20 | シモニアの酸化 24 |
| 1.1 原子価結合法 20 | 3 ニトロシル錯体の構造の研究 24 |
| 1.2 分子軌道法 21 | 3.1 振動分光法 24 |
| 1.3 Enemark と Feltham による結合表示
21 | 3.2 X 線結晶構造解析 25 |
| 2 ニトロシル錯体の合成 21 | 非架橋状錯体(单核錯体) 25 / 架橋状
NO 錯体(多核錯体) 26 / trans-Streng-
thening 効果 27 |
| 2.1 NO の供給試薬 21 | 3.3 ^{15}N NMR 分光法 27 |
| 窒素酸化物 21 / ニトロソニウム塩
22 / 塩化ニトロシル 22 / 有機ニトロ
ソ化合物 22 / 配位した NO の移動によ
るニトロシル化 22 / ヒドロキシリアルミ
ン 23 / 垣硝酸イオン 23 / 硝酸 23 | 4 ニトロシル基の反応 28 |
| 2.2 窒素を含む配位子の反応 23 | 4.1 求核付加反応 28 |
| ニトリト-N 基あるいはニトリト-O 基の
ニトロシル基への変換 23 / 配位したア | 4.2 求電子付加反応 28 |
| | 4.3 M-NO から M-NO _x への変換と基質の酸
化 29 |
| | 文 献 29 |

II NO の化学

(A) 基 础

4 NO の大気中の反応	畠山史郎, 嵐峨井 勝	35	
1 大気中の微量成分および NO _x の起源と分布	35	族炭化水素, とくに多環芳香族化合物と NO _x との反応	40
2 大気汚染問題と NO _x	37	3 地球規模の大気環境問題と NO _x	41
2.1 光化学オゾン生成と NO _x	37	3.1 成層圏のオゾン層破壊と NO _x の役割	41
2.2 大気中における有機物の光化学反応による有害含窒素化合物の生成反応	38	3.2 対流圏大気の酸性化と NO _x の役割	42
アルカン類と NO _x との反応 / 芳香	39 / 芳香	文 献	45

5 NO-金属ポルフィリン錯体の光反応	星野幹雄	46	
1 金属ポルフィリン錯体の軸配位子光解離反応	46	シルヘムタンパク質の光反応	47
2 ニトロシル鉄ポルフィリンおよびニトロ		3 今後の展望	50
		文 献	51

(B) 応 用

6 NO 產生化合物	丹野雅幸, 末吉祥子, 宮田直樹	53	
1 自発発生型化合物	55	2.2 NOR 類	58
1.1 S-ニトロソ化合物	55	2.3 金属ニトロシル類	58
1.2 芳香族 N-ニトロソ化合物	55	2.4 SIN-1	58
1.3 NOC 類	56	3 代謝活性型化合物	59
1.4 CNO 類	56	3.1 グアニジン類	59
1.5 1,2-ジアゼチジン-1,2-ジオキシド類	57	3.2 アミドキシム類	59
2 化学反応依存型化合物	57	3.3 モルシドミン	59
2.1 硝酸エステルおよび亜硝酸エステル	57	3.4 オキサトリアゾリウム類	60
		文 献	61

7 NO 消去・定量化合物: PTIO	赤池孝章	63	
1 NO 消去剤 nitronyl nitroxide を用いた NO の定量的検出	63	NO の定量的検出	68
2 PTIO 誘導体のリポソーム化による安定化	66	4 PTIO による NO の定量測定上の問題点	70
3 Lip-PTIO を用いた細胞より放出される		文 献	70

8 NO 合成酵素阻害剤	小川 正	71	
1 NO 合成酵素阻害剤	71	1.1 阻害剤の構造と阻害の特異性	71

L-アルギニン誘導体 72 / N^6 -イミノエチル-L-オルニチン 75 / L-チオシトルリン, L-カナバニン 75 / メチルグアニジン, 1,1-ジメチルグアニジン, アミノグアニジン, N, N' -ジアミノグアニジン 75 / イミダゾール, 1-フェニルイミダゾール, 2-フェニルイミダゾール, 4-フェニ	ルイミダゾール 76 / インダゾール, 5-ニトロインダゾール, 6-ニトロインダゾール, 7-ニトロインダゾール 76
	1.2 内因性阻害剤としての N^G -モノメチル-L-アルギニン, N^G, N^G -ジメチル-L-アルギニン 77
	文 献 77

9 NO の検出・測定法長野哲雄…79

1 NO 測定の意義と概要 79	5.3 ジエン法 83
2 オゾン化学発光法 80	5.4 PTIO 法 83
3 グリース反応法 80	6 ラジオアイソトープ法 83
4 電極法 81	7 蛍光法 84
5 ESR 法 82	8 ルミノール化学発光法 84
5.1 ヘモグロビン法 82	9 今後の展望 85
5.2 鉄-ジチオカルバメート法 82	文 献 85

III NO の生物化学

10 NO 合成酵素松岡有樹, 斎藤正男…89

1 NOS のアイソザイムと分子構築 89	3.2 CN ⁻ 親和性に対するL-Arg の影響 92
2 NOS の補酵素と反応機構 90	3.3 CO 結合反応の速度論 93
3 NOS の活性調節機構 91	3.4 NADPH による NOS の還元滴定 95
3.1 L-Arg の結合とヘムのスピニ平衡 91	文 献 97

11 NO と可溶性グアニル酸シクラーゼ牧野 龍…99

1 可溶性グアニル酸シクラーゼのアミノ酸配列とサブユニット構造 99	4 ヘム鉄の配位構造とスピニ状態 102
2 ダイマー形成と酵素活性との関係 101	5 NO によるグアニル酸シクラーゼ反応の活性化の特異性 104
3 ヘムの結合数と結合部位 101	文 献 106

12 NO の生理的なスピントラップとしてのヘモグロビン小坂博昭…107

1 生体内生成 HbNO の ESR スペクトル 107	1.2 サイトカインの関与 112
1.1 HbNO の ESR スペクトルの動・静脈差 108	2 狹心症薬と NO 112
	3 虚血再灌流と NO 114
	文 献 115

13 NO と非ヘム鉄タンパク質藤井敏司, 吉村哲彦…116

1 内因性 NO と非ヘム鉄タンパク質 116	1.2 ミトコンドリア内の非ヘム鉄タンパク質 117
1.1 細胞内鉄代謝 116	

1.3 リボヌクレオチドレダクター γ	118	カテコール2原子酸素添加酵素類 121/チダモノオキシン 121/イソペニシリンNシンターゼ 121/フェリチン類 122/ヘムエリトリン 122
1.4 内因性NOトラップ試薬としての非ヘム鉄タンパク質	119	
2 プローブとしてのNOと非ヘム鉄タンパク質	119	3 ニトロシル鉄2価錯体の電子状態と構造 122
2.1 鉄硫黄タンパク質	119	文 献 123
2.2 鉄硫黄タンパク質以外の非ヘム鉄タンパク質	121	
14 NOと銅タンパク質		鈴木晋一郎…126
1 タイプ1銅含有タンパク質	126	4 複数のタイプ銅を含むタンパク質 131
2 タイプ2銅含有タンパク質	129	文 献 133
3 タイプ3銅含有タンパク質	129	
15 NOと神経伝達		岡田大助…134
1 シナプス伝達によって起こること	134	4 NOの可塑性での役割 140
2 神經伝達によるNO発生機構	135	文 献 141
3 NOの神經伝達への効果	138	
16 NOの代謝動態——その様相と病態		南山幸子, 井上正康…143
1 生体におけるNOの代謝	143	2.4 リウマチ 148
2 NO代謝病態	146	2.5 虚血-再灌流障害 148
2.1 高血圧	146	2.6 糖尿病 149
2.2 動脈硬化	146	文 献 150
2.3 敗血症	147	
17 NOと微生物		吉村哲彦, 城 宜嗣…151
1 NOと微生物の関係	151	3.2 <i>F. oxysporum</i> の一酸化窒素還元酵素 156
2 脱窒菌とNO	152	チトクロムP450nor 156/反応機構 156/構造 157/脱窒菌のNORとの比較 158
2.1 脱窒菌	152	文 献 159
2.2 脱窒に関わる酵素	153	
2.3 チトクロムc'	154	
3 カビとNO	155	
3.1 カビも脱窒をする?	155	
18 NOの病態生理的役割と臨床応用		平田恭信…161
1 冠動脈硬化とNO	161	5 動脈硬化とNO 163
2 狹心症の治療とNO	162	6 敗血症性ショック 164
3 心不全とNO	162	7 肝硬変とNO 164
4 高血圧とNO	162	8 消化管とNO 165

9 神経系と NO	165	12 NO 吸入療法	166
10 腎不全と NO	166	13 呼気中 NO 濃度の測定	167
11 炎症性疾患	166	文 獻	168
Abstracts : NO—Chemistry and Biology		171	
索 引		179	
著者紹介 170, 178, 182			